＊現代社会・文化史資料 18＊

『北の子供』

―占領期の地域児童文化雑誌 1946～50

全5巻
＋別冊
［復刻版］

―監修・解題―
谷 暎子

アジア太平洋戦争敗戦後、焦土の中で細々と命をつなぐ子どもたちに直面した大人たち。その切実な思いから全国各地で児童雑誌の創刊は相次ぐ。

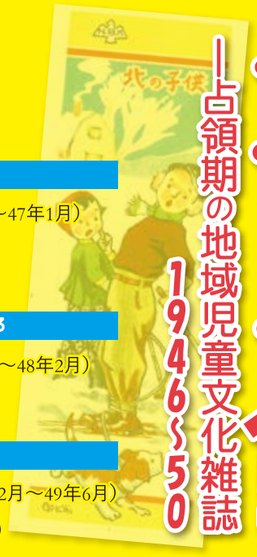
仙台では『東北少国民』、広島では『ぎんのすず』、そして北海道では、1946年4月に新日本文化協会が「世界と古今の廣場で子供達にのびのびとした平和な人間教養を與へる」ことを掲げて、児童文芸雑誌『北の子供』を創刊。

発行元は・戦中の 1941 年に組織され、国策宣伝紙芝居の制作・販売・貸出を行った翼賛団体北海道教育紙芝居協会を再編・改称したものだった。

「わたしたち」の常識を相対化する ＊現代社会・文化史資料 18＊

『北の子供』

―占領期の地域児童文化雑誌 1946～50



監修・解題―
谷 暎子（日本児童文学学会）
推　薦―**浅岡靖央**（白百合女子大学）／**齋木喜美子**（関西学院大学）

造　本―A5・並製・総約 2,070 頁　　揃　価―126,000 円（配本毎・別冊分売可）

【第一回配本】2023年6月　配本揃価25,800円　ISBN978-4-910998-17-6

- **第一巻**（360頁）『北の子供』1巻1号～2巻1号〈1号～6号〉（新日本文化協会、1946年4月～47年1月）
- **別　冊**（106頁）　3,000円　（別冊のみ分売可）　ISBN978-4-910998-16-9
  解題、総目次細目、索引、特別附録資料

【第二回配本】2023年12月　配本揃価49,600円　ISBN978-4-910998-18-3

- **第二巻**（348頁）『北の子供』2巻2号～3巻2号〈7号～16号〉（新日本文化協会、1947年4月～48年2月）
- **第三巻**（370頁）『北の子供』3巻3号～3巻11号〈17号～25号〉（同上、1948年3月～11月）

【第三回配本】2024年6月　配本揃価50,600円　ISBN978-4-910998-19-0

- **第四巻**（370頁）『北の子供』3巻12号～4巻6号〈26号～32号〉（新日本文化協会、1948年12月～49年6月）
- **第五巻**（380頁）『北の子供』4巻7号～5巻1号〈33号～38号〉（同上、1949年7月～50年1月）

児童文学史では戦後初期を雑誌期とも呼び、研究対象は東京で発行の児童雑誌が中心であった。

地域性に根ざしながら、同時に世界に通用する新しい日本の建設を課題とした大人たちが、その担い手として期待する子どもたちに、どのような思いを託し、どのような内容を届けていたのであろうか。今回の復刻はそれを考える大きなきっかけとなる。

地方で創刊の児童雑誌は、地元図書館などにも収集されておらず、実態の把握すらままならなかった。

発行元・新日本文化協会は小規模出版社で、財政的な問題、編集者の交代、用紙の調達、発行数減、加えてＧＨＱの検閲などの難題に向き合い、五年間、常に新たな試みに挑戦しながらの発行であった。

Kanazawa Bumpokaku
金沢文圃閣　〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884　Fax 233-3111
□書店様へ…ありがとうございます 直接小閣までお申し込みください
※図版は本書より〔一部原紙より編集・加工〕　価格は税別　　054／08／2000

推薦文

教育と児童文化が有為転変する中で、『北の子供』はどのように位置づけられるのか

浅岡靖央（あさおかやすおう／白百合女子大学人間総合学部児童文化学科教授）

アジア太平洋戦争敗戦後、焦土の中で細々と命をつないでいた子どもたちに直面したことで、切実な思いから行動を起こした大人が全国にいた。たとえば東京では、「子どもから戦犯と言われても仕方のない私」という思いを秘めた国民学校教員・金沢嘉市が、せめて「子どもに娯楽を与えよう」と考え、仲間たちに呼びかけて東京児童文化連盟を結成し、芸能大会を開催している。1946年3月のことだ。そして北海道では、新日本文化協会が「夢とたのしさを子供に與へる」ことや「世界と古今の廣場で子供達にのびのびとした平和な人間教養を與へる」（創刊号「これからの内容」より）ことを掲げて、児童文芸雑誌『北の子供』を創刊した。1946年4月であった。

当時、各地で児童雑誌の創刊が相次いで行われていた。たとえば仙台では、1946年2月に河北新報社から『東北少国民』が、また原子爆弾によって甚大な被害を被った広島でも、1946年8月に広島児童文化振興会から、低学年用『ぎんのすず』と高学年用『銀の鈴』が、創刊されている。そうした中で、今回復刻された『北の子供』には、北海道という土地の地域性が特に色濃いという印象を持つ。その背景には、発行元である新日本文化協会が、北海道教育紙芝居協会を再編・改称したものであるという事実がある。

北海道教育紙芝居協会は、戦中の1941年に組織され、国策宣伝紙芝居の制作・販売・貸出を行った翼賛団体である。新日本文化協会への再編・改称は「時局の変転」を理由にして行われているが、この点について谷暎子氏は「戦時の活動の反省・評価を経た再編だったのか、疑問も残る」と指摘されている。さらに北海道では、1940年から1941年にかけて、綴方教育連盟事件と生活図画事件という2つの不当な教員弾圧があった。戦中から戦後初期にかけて、教育と児童文化に関わる営みが有為転変する中で、はたして『北の子供』はどのように位置づけられるのか。地域性に根ざしながら、同時に世界に通用する新しい日本の建設を課題とした大人たちが、その担い手として期待する子どもたちに、どのような思いを託し、どのような内容を届けていたのかを確認したい。今回の復刻はその大きな契機となる。

『北の子供』の復刻は偉業である。多くの方々の目に触れることを期待してやまない。

戦後初期、児童・文化・文学史研究への広がる可能性

齋木喜美子（さいき きみこ／関西学院大学）

金沢文圃閣から『台日コドモ新聞』（台湾日日新報社）の復刻版が刊行されたのは、確か2020年のことであった。これまで、日本統治下の台湾における児童文化・文学史研究は資料も先行研究も乏しかったため、当時の児童文化をうかがい知ることのできる原資料の復刻は、研究者にとって大きな喜びであった。

あれから3年。今度は占領期に北海道で発行されていた児童文芸雑誌『北の子供』（新日本文化協会）が復刻されるという。従来、児童向けの出版物は貴重書として収集の対象とされていなかったし、消耗も激しかったためまとまった資料が一か所に所蔵されていることは極めて少ない。しかもこの時代は児童雑誌が雨後の筍のごとく大量に出回っていたにもかかわらず、書誌は必ずしも整っているわけではない。占領期にはGHQ/SCAPによる検閲が実施されていたことも相まって、国内の児童雑誌の保存状態はかなり悪かったと言ってよい。だからこそ、こうした歴史的基礎文献の復刻は占領期研究だけでなく、戦後初期の日本における児童文化・文学史研究の進展に欠かせないものとなる。

では『北の子供』復刻によって、どのような研究の可能性が広がるのであろうか。思いつくままにあげてみたい。まず第一に、占領期における地方の児童出版物の実態が明らかになることで、日本の児童文化・文学史の空白を埋めることができるという点があげられる。戦禍を逃れて疎開してきた文化人や出版社が多かったため、この時代の北海道は出版活動が盛んであったという。児童文学史研究では、中央で発行されていた『赤とんぼ』をはじめとするいわゆる「良心的」児童雑誌の出版活動が注目されてきたが、『赤とんぼ』と同時期に刊行され、より長い期間発行されていた『北の子供』との比較検討を通して、今後明らかになる事実もあろう。第二に、『北の子供』に関わった作家、詩人、画家、漫画家等の児童文化活動の中身を具体的に知ることができる点がある。その後の作品や文化活動への影響、戦前から戦後へとつながる文化人たちの思想の変遷が辿れることは、作家・作品研究をより深く豊かにするだろう。作品の質や彼らの子ども観の解明も興味深いテーマとなり得る。第三には……これが最も重要な点だと私は考えているのだが……、『北の子供』を手掛かりに、他の児童雑誌や児童文化活動、あるいは教育関係の資料発掘や研究が進み、北海道という地方発の研究成果を世に問うことができる点にある。中央は進んだところ、地方は遅れたところというステレオタイプは今や通用しない。北海道発の児童文学・文化研究成果の発信は、他の地域の資料発掘や活用への刺激にもなっていくに違いない。次に何が生み出されるのか、『北の子供』の復刻による研究成果からも目が離せない。

総目次〈抄〉

〈こども評論〉封建主義の話　櫻井忠
〈文章〉進駐軍　麻生正三（札幌市西創成校・五年）
〈こども評論〉農民の話　櫻井忠
直江津の芭蕉　百田宗治
木の葉のラッパ　石森延男
〈随筆〉わたしの故郷を語る　更科源蔵
新イソップ―フクどんとサルどん　長谷川ミツ
〈児童詩〉白いライン　山崎悠司（三井美唄国民学校四年）
新らしい魔法の町　川崎大治
〈詩の選評〉見た眼を生かせ！　百田宗治
アイヌと熊の仔　川口清一
〈アメリカ小学校児童作品〉日本へ来た前後　パトリック・アーター
〈児童詩〉注射　村松勝雄（空知郡美流渡校五年）
ベニマシコ　尾崎喜八
天井うらのお爺さん　室生犀星
〈アメリカ小学校児童作品〉楽しいクリスマス　ジェーン・ジヤブロンスキー
〈アメリカ小学校児童作品〉”彗星”とはなんでしょう　ジョン・モーラン
〈童詩〉午後八時　竹内てるよ
六つ指の海おとこ　2　北畠八穂
学校給食に対する子供側の希望と感想
〈児童向紙芝居〉光の城物語　川崎大治／小原二郎
愛読者通信　片山鋭尚（根室町北斗校六年）
〈連載マンガ笑伝　第5回〉クリちゃん―愛犬パイの巻　高木富三夫
〈児童文章〉働く父　小笠原剛（空知郡美唄校町常磐校六年）
〈児童文章〉引揚　神田二三男（枝幸郡敏音知中学校二年）
〈少女小説〉みやこわすれ　竹内てるよ
〈児童詩〉給食のミルク　齋藤幸子（函館市八幡校六年）
〈児童文章〉修学旅行　石橋冠（札幌市西創成校六年）
ローマ字教室―ギリシャ神話オリオン
牡丹江を離れる日―記憶をたどって　米山美和子（斜里郡川上中学校）
〈児童文章〉復員したおじさん　松崎哲夫（旭川市正和小学校六年）
〈連載マンガ第11回〉クリちゃん―コドモ新聞の巻　高木富三夫
萩はこぼれ咲し　工清定作／村岡登（画）
〈新しい北海道の歴史〉北のあゆみ　中津川俊六／米谷鉄男（画）
〈中国の民話〉あかがね橋を渡った豚ころし　和田義雄／清水裕幸（画）
サッポロアメリカンスクール
〈感激物語〉友情の手術　小林覚一／岸田賢治（画）
〈児童文章〉かわいそうな兎　関磯雄（白糠郡音別村尺別炭礦小学校五年）
〈児童文章〉満洲から日本へ　蘭禮子
〈児童詩〉新しいラヂオ　西崎久（栗澤村美流渡小学校六年）
鈴木三重吉先生　木村不二男／江口秋彦（画）
本誌創刊三周年記念愛読者大会
〈詩〉日記の思い出　山本弘子（空知郡奈井江村立南中学校一年）
〈児童文章〉鐘の鳴る丘を見て　佐藤弘子（河西郡芽室小学校六年）
〈本道唯一の児童雑誌”北の子供”創刊満三周年記念に寄す〉北の子供たちへ贈る　奥田孝位（北海道教育委員会事務局視覚教育課長）
ささやかな花束―北の子供創刊三周年に捧ぐ　工清定（作家）
誰にでもわかりやすい原子力のお話　梅田魁（理学博士）
浮浪児　諸角和儔
雪女のはなし―東北の昔話―　小田邦雄／村岡登（画）
冒険実話小説―三少年の満洲脱出　杉野正美／江口秋彦（画）
〈連続新講談〉少年里見八犬伝　鴨川輩人